

# 高体連ニュース

発行所  
山形県高等学校体育連盟  
山形県スポーツ会館内  
電話 023(624)0929  
発行人 高藤 俊昭  
編集 広報委員会  
印刷 徳大印刷

## 冬季インターハイ(スケート・スキー) 新戦力の台頭で 県勢健闘!!

### 矢口(北村山1年)が準優勝 - スキー・女子フリー10km - 須郷(山形中央2年)も5位入賞 - スケート・女子1000m -



米沢工業高校スキー部は、県内唯一のアルペン・クロスカントリー・ジャンプの三セク

### 「日本一」を目指して

山形県立米沢工業高等学校スキー部



自分の滑りで見事準優勝の矢口選手(北村山)

第五十四回全国高等学校スキー・アイスホッケー選手権大会は、八戸市を中心に青森県内の一、二月三日から二十七日までの五日間の日程で開催された。本県からは、スピードスケート競技に十一名の選手が出場。女子一、〇〇〇mでは、須郷選手(山形中央)が、スタートから果敢な滑りを見せ五位入賞を果たした。また、男子一、〇〇〇mでも長谷川正樹選手(山形中央)が八位に入り、初の全国入賞となった。スケート競技は昨年の屈辱を晴らすことができると同時に、須郷・長谷川両選手は共に一、年生、更に、入賞は逸したものの一、二年の選手も、全国への手応えをつかんでおり、来季は今年以上の成績が期待される。

シヨンの選手が揃っており、特にジャンプ陣は、毎年全国大会で上位入賞する常連校です。OB(坂野幸夫、柴田康宏、鈴木康哲)も北海道の企業に進み目覚ましい活躍をしております。スキージャンプ競技は冬の競技ではありませんが、北海道・長野県・秋田県・新潟県などの強い所には立派なサマージャンプ台があり一年を通して技術の向上が図れる施設が完備されており、残念ながら本県にはサマージャンプ台がないので、夏場は土曜・日曜を利

キ大会は、白銀の尾瀬の大地に、君が飛ぶ、をスローガンに、群馬県片品村で二月五日から五日間の日程で開催され、五二名の本県選手団は、昨年の入賞数十二には及ばなかったものの、入賞九を果たし、スキー王国山形の面目を保った。この大会で活躍が際立ったのは、クロカン女子の矢口小百合選手、北村山である。二日目の五kmクラシカルで四位入賞を果たすと、その集中力を次の日の一〇kmフリーでも持続させ、会心のレースで準優勝を掴んだ。また、出口選手以下一年生三人だけの出場となった北村山高校は、他に齊藤友理選手が、女子一〇kmフリーで十位に、女子



も達成出来なかった、日本一を目指し日々努力し頑張ってきた選手たち。



スタートからスピードに乗った須郷選手(山形中央)



2回目で巻き返し5位入賞の大選手(日大山形)

用し秋田県、長野県などに遠征し技術の向上を図っており、ノーマルヒルで八三km、ラージヒルでは九三kmのスピードで空中に飛び出す競技であり恐怖との戦いのスポーツです。一年を通してスピード感を持ちながら技術の向上を図っており、いかなる状況下でも選手層も厚く、厳しい状況の中で、北海道・長野に追いつけない越えなかつた選手をものにも出来ず、過去の全国大会では一位が最高の成績でしたが、この夏二年生の佐々木悠兵がサマージャンプ大会で二勝し、大きな自信をつけました。今シーズンは、先輩方

残念だったのは、昨年の地元イオンスタジアムで五位入賞を果たしたが、もう一歩の所で表彰台に届かなかった。男子スペシャルジャンプの佐藤貴憲選手(米沢)も昨年の六位を上回ることができ九位入賞となった。しかし、女子スラローム(日大山形)が、若田佳央選手(日大山形)から七位入賞するなど、クロカン勢同様来季への手応えもある大会であった。スケート・スキー共に来季は期待できるが、是非今年度実現できなかった優勝を目指してほしい。

一五kmリレーでも九位に入り、女子学校対抗四位入賞という素晴らしい健闘を見せた。

### 県高体連 ホームページ開設

本高体連では、事務局に問い合わせの多い、各種大会の日程や場所、また大会結果などを中心としたホームページを、来年度から開設できるように準備を進めております。現在、四七都道府県の高体連でホームページを開設している事務局は十四、年々増加傾向にあり、本県でも、各種大会内容や結果、各委員会の活動内容など、高体連に関わる様々な取り組みについて、広報していく予定です。各方面から御意見をいただき、内容の充実したものにしてゆきたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。なお、アドレスは、高体連ニュース第五四号に掲載します。

### 少林寺拳法は映画だけではありません

映画「少林寺」を見た人は、その動きのすばらしさ、人間の限界を超えた能力に目を奪われ、心惹かれた人も多いことでしょう。その少林寺拳法が、本年度から高体連専門部の仲間入りしました。県内で活動中の仲間入りは、日大山形・山形学院・酒田工業の三校で、競技人口は約四〇〇名と、まだまだ小規模ですが、県内にある少林寺拳法の道場や、連盟の方々の協力をいただきながら、競技人口の拡大に取り組んでいるところ。山形県のレベルはまだこれからといいますが、それだけ可能性があると云えます。映画だけでなく、実際にあなたも取り組んでみませんか。

### 頂点を目指して 中高体連選手強化講習会

「チーム山形」として全国を舞台に活躍できる選手の育成を目指し、中高体連が連携して今年度の選手強化講習会が十二月十八・十九日、一月二十九・三十日の二回にわたって県内有力中高生を集めて県総合運動公園を会場に行われた。勝田隆教授をはじめ仙台大学の四人の先生や多くの学生たちを指導者として、運動理論やメンタルトレーニングの講義を受けた。ワークショップや具体的なトレーニングの方法の実践、さらには栄養相談、メンタル相談までその指導は多岐にわたる。受講者も目を輝かせて真剣に参加していた。

### 平成16年度 山形県高等学校スキー大会成績一覧

種目	順位	氏名	所属校
ジャイアントスラローム	1位	国分 惇	日大山形3年
	2位	清水 宏康	山形中央3年
	3位	齊藤 俊樹	日大山形3年
スラローム	1位	鶴岡 優利	日大山形2年
	2位	清水 宏康	山形中央3年
	3位	岡崎慎之介	日大山形1年
クロスカントリー-10kmクラシカル	1位	有路 健太	真室川3年
	2位	伊藤 圭人	金山3年
	3位	五十嵐隆介	新庄北3年
クロスカントリー-15kmフリー	1位	小野 智彦	金山2年
	2位	伊藤 圭人	金山3年
	3位	有路 健太	真室川3年
クロスカントリー-リレー	1位	金 北村山	高
	2位	真室川	高
	3位	新庄北	高
スペシャルジャンプ	1位	佐々木悠兵	米沢工業2年
	2位	佐藤 貴憲	米沢工業3年
	3位	佐藤 貴吾	米沢工業1年
コンバインド	1位	安藤 政典	米沢工業2年
	2位	丹 勇一朗	米沢工業3年
	3位	高橋 克昌	米沢工業1年

### 今年度の特徴

一、部活動加入率の増加  
全国的な少子化、それに伴う高校の統廃合が具体化される中、平成十六年度(全日五月現在)県内高校生徒数四〇、七六八、全国三番目、高体連部活動加入人数二、九四三名(全国二番目)と加入率五二・一%(全国二番目)と近年、実数・加入率ともに増加傾向の現状にある。今後益々、幅広い選手層に対する質の高い指導力が求められ、研修の場や機会を充実させていく必要がある。

二、全国での活躍  
夏季全国大会では、優勝三を含む九位以内入賞三〇(入賞数全国三〇番目)と健闘した。技術力のレベルが高いだけでなく、人作りにつながるメンタル的な総合力を少しでもレベルアップさせた選手や指導者と一緒に、多く巡り会いたいと思いつつ、その場を後にした。次年度に向け、選手・指導者一丸となって、更なる飛躍を期待いたします。

### 富樫郁彦 県高体連理事長

スケートの入賞。スキーでは、最上体の翌年という高い期待の中、入賞数九と昨年の十二に及ばなかったものの、一年生の活躍が目立ち、来年度への期待が高い大会であった。今後の課題として、上位入賞を二桁確保し、入賞三〇・三五を安定して継続していく力をつけることと求められる。そのためにも、各専門部と競技団体の連携による組織的な強化を推進し、各校での強化組織体制の充実が求められることを期待している。

全国的に、女子の全国的活躍が印象深く、男子の奮起に期待するところが大きい。団体種目の競技方向が依然として課題に残留している。この一年、各種目会場を激励し、こんな場面に遭遇した。競技終了後、道具を投げつけ、負けた悔しさをぶつける選手もいる。それを監督やチームメイトが片付けるわけでもなく、大会関係者が始末する光景、見ても相手に握手を求めず、悔しい選手もいる。

一部写真は、山形新聞社より提供していただきました。

寒さは味方! 県勢の活躍光る

- 冬の全国大会・東北高校新人大会 -

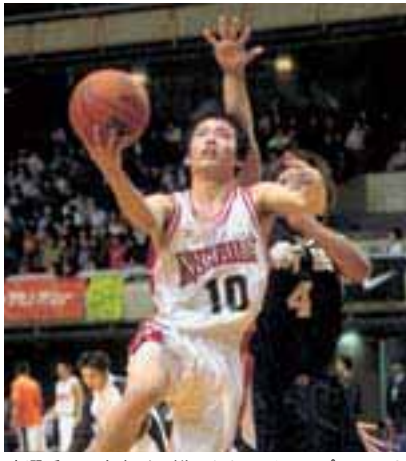
全国高校サッカー
全国選抜バスケット男子
全国高校駅伝伝女子

羽黒
目黒
山形城北
ベスト16

高校スポーツの冬の風物詩としてすっかり定着した駅伝...



石山選手(山形城北)全力を出し尽くしてのゴール



森選手(日大山形)鮮やかなレイアップシュート

頑張っています

新庄産業高校

本校は新庄産業高校と新庄工業高校が統合して開校二年目、新しい伝統を創るつもりでいる...

ボクシング部

た。「優勝」のために努力を重ねていきたいと思います。

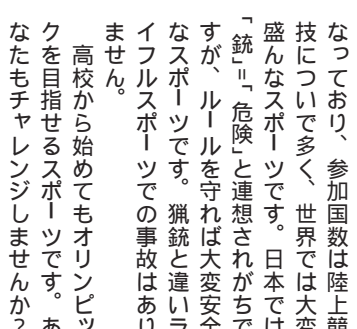
部員も総勢三十八名と多く、中でも女子ボクシング部員を有することで華やかな存在です...



昭和三十九年に愛好会として発足、これまで昭和五十八年から連続六回と平成十一年にインターハイ出場したものの、部員不足で苦勞しながら地道に活動を続けてきました。

日本大学山形高校

昭和五十二年に愛好会として発足、これまで昭和五十八年から連続六回と平成十一年にインターハイ出場したものの、部員不足で苦勞しながら地道に活動を続けてきました。



東北高校新人大会上位入賞一覧

Table listing winners and runners-up of the Tohoku High School Newcomers Meet across various sports like football, basketball, volleyball, etc.

1987年～88年(昭和62年度)

インターハイ・ボクシング ライトフライ級優勝
日本大学山形高等学校 安藤 雷太 選手

北海道から沖繩まで全国に名を轟かせる山形県勢
インターハイ 夏季(北海道)メダル11・入賞26 / 海邦国体(夏季沖繩)メダル4・入賞18

インターハイ・登山男子優秀パーティー
米沢工業高等学校

団体・レスリング フリー 88kg級優勝
山形市立商業高等学校 工藤 雅好 選手

インターハイ・国体スキー 大回転優勝
日本大学山形高等学校 岡崎 若華 選手

インターハイ・ボクシング ライトヘビー級優勝
加藤 欣也 選手

インターハイ・国体スキー 大回転優勝
日本大学山形高等学校 岡崎 若華 選手

団体・レスリング フリー 88kg級優勝
山形市立商業高等学校 工藤 雅好 選手

山形スポーツ 今昔

最近話題の本県出身選手を紹介し、現在の高校生(二年生)が生まれた十七年前の先輩たちの栄光の記録をたどってみました。

2004年～05年(平成16年度)

カヌー 竹屋美紀子選手
谷地高校出身(谷地高校)

自転車 齋藤登志信選手
山形電波工業高校出身(日本競輪選手会)

野球 梅津 智弘 選手
山形明新館高校出身(国学院大学)

レスリング 鶴巻 宰 選手
米沢工業高校出身(国士館大学)

一部写真は、山形新聞社より提供していただきました。